

第17回

藍と古布

「和の衣を着る」

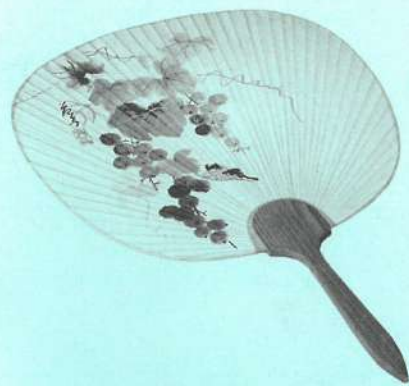
初夏の特別販売会

藍と古布「和の衣を着る」

令和元年6月25日④～7月7日⑤

営業時間 午前10時～午後5時
(月曜定休日)

会場 展勝地レストハウス



ご家族、ご友人お誘い合わせの上
お気軽にお越しください
心よりお待ち申しあげております
ひとときの一服として
コーヒー券を
同封させて頂きましたので
この機会にどうぞ



展勝地レストハウス

岩手県北上市立花14-21-1 ☎0197(64)2110
www.tenshouchi.com/

母や祖母が着ていた「きもの」柄や色が派手で着なくなった娘のころの「きもの」機会のないままに長く手を通さずにいる「きもの」とても好きな柄なのに、しみや陽やけできものとしてのいのちを半分終えてしまったもの、たんすの中に眠っているそんな「きもの」。

昔の人は、ひとつのきものを何度も染め替えては身につけ、また、布団や座布団に仕立て直して弱くなればさらに裂き織りにして帯をつくり最後の最後まできものときあいました。

今に生き、時を経た布を着るということは、その布に込められた心を着ること…。

第17回
藍と古布 「和の衣を着る」

展勝地の山々は日に日に緑こく、アザミ、ヤマボウシが咲き、カッコウの音がきこえます。
 初夏をむかえ、涼やかな藍染。日本の時代時代の文化を映す古布の創作服と小物たちなど夏の生活提案をさせていただきます。どうぞ遊びにいらして下さい。おまちしております。



特別出品

骨董
 古民具
 ぶどう
 あけび
 バック

中
古布の店

麻

紹

紬

緋

たきうら
染屋

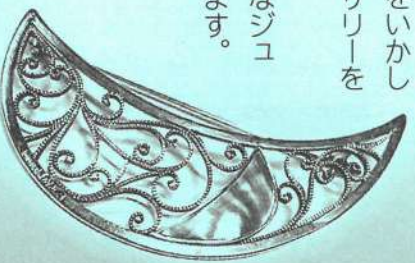
紗

つつがき
筒描

筒に米糊を入れ、先端の筒金から少しずつ押し出して文様を描くように糊置きして防染する。染めの技法のひとつです。

彫金「工房あんべ」では、シルバー等の素材をもとに、繊細な彫金技術をいかしお気に入りのオリジナルアクセサリーを提供しております。
 また、お客様の眠っている大切なジュエリーを蘇らせる加工もいたします。

彫金
 工房あんべ



平成27年度国選定
 卓越技能者「現代の名工」

三代目 滝浦輝夫 監修
 どれも、柄・絞り・染料・染めにこだわりぬいた一点もの。
 手仕事ならではの美しさをこの機会にどうぞご覧くださいませ。

せしり
刺子

布地に糸で幾何学模様等の図柄を刺繍して縫いこみ、木綿に木綿糸で補強したものが始まりとされています。